

人影が見える国境

四方を海に囲まれた島国・日本にとって日常的に「国境」をあまり意識することはない。世界地図を見たとき、アメリカとカナダ（北緯 49 度線）、韓国と北朝鮮（北緯 38 度線）は陸続きであるが人為的に線を引いて国境と定めている。また自然物による山脈、河川、湖水、海洋等を国境とする場合もある。

朝の 10 時ごろになると日差しは強く木陰を求めたくなるほど暑いシンガポール。ジョホール海峡を隔ててマレーシア半島の南端のジョホールバル（マレーシア第二の都市）が目に見える。近代的な高層建築が林立しており車が走っている様子が見えている。よく見ると人影まで確認できた。少々泳げる人であれば簡単に対岸まで渡れる距離だ。暫く海峡周辺を見ているとシンガポールの国境警備艇らしきボートがパトロールしていた。おそらく不法侵入を防ぐ警戒なのだろう。日本人からすると考えられない不思議な国境周辺の光景であった。

すぐ横には両国を結ぶコーズウェイという海峡に架かる橋がある。1923 年に開通し総距離は 1056m。この橋は道路（一日 6 万台の車両）と鉄道が走り、更には水のパイプラインが 3 本通されている。シンガポールは水が不足しており約半分以上をマレーシア・ジョホール州から原水を購入している。勿論国境を渡るので両端には料金所、国境検問所があり、出入国審査を受けなければならない。

国が違うといえども近隣の同地域であり気候も全く同じだ。しかし人種、歴史、文化、宗教、通貨等、全く違った生活が国境を隔てただけで変わってしまう。



撮影 2014 年秋

